

# 斑点米カメムシの防除法

## 1. 背景・目的

県内で問題となる斑点米カメムシとして、「アカヒゲホソミドリカスミカメ」と「アカスジカスミカメ」の2種類が主要加害種として知られています。近年は立て続けに斑点米カメムシに関する発生予察注意報が発表されるなど、発生量の増加と発生期間の長期化が懸念されています。そこで、多発生条件下でも効果的な薬剤と、散布時期・散布回数について検討しました。



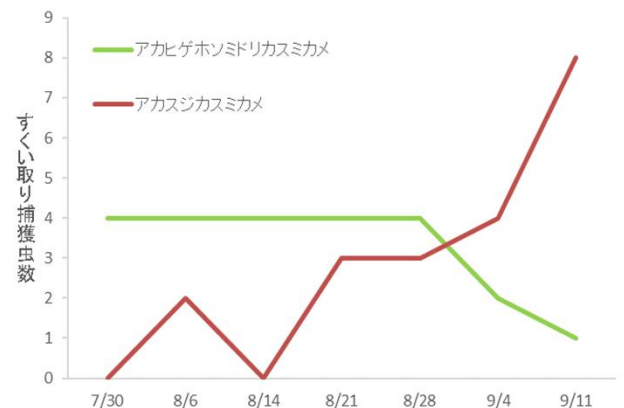
アカヒゲホソミドリカスミカメ



アカスジカスミカメ

## 2. 本田内の斑点米カメムシの発生推移

- 斑点米カメムシは本田内で7月下旬から9月中旬までの長期間にわたり、2種類がリレーを繋ぐかのように発生し続けています。
- 出穂直前のいもち病防除と同時に殺虫剤を散布しても満足な防除効果が得られず、穂揃期頃に1回、斑点米カメムシの防除を行っただけでは、8月中旬以降に増加する「アカスジカスミカメ」に対する防除効果が期待できないことが分かります。



## 3. 多発生条件下では2回の散布が必要です

- 高い防除効果が期待できるネオニコチノイド系殺虫剤でも、多発生条件下の1回散布では斑点米混入率を落等水準である0.1%以下に抑制できませんでした。斑点米カメムシの多い年は、穂揃期～穂揃14日後までの間に2回の散布を実施することをお勧めします。

